

【概要】
住宅ローン利用者の実態調査
【住宅ローン利用者調査(2019年度第1回調査)】
※「民間住宅ローン利用者の実態調査」から調査名称を変更いたしました。

I 調査の概要

2019年4月～9月に住宅ローン（フラット35を含む。）の借入れをされた方を対象とし、利用した住宅ローンの金利タイプや住宅ローン選びに関する事項についてインターネットによるアンケート調査を実施し、その結果をとりまとめたものです。

（参考）調査実施時期：2020年3月3日～3月23日、回答数：1,548件

II 調査結果の主なポイント

※〈〉は、本調査結果の詳細資料中の該当ページ

1 利用した金利タイプでは、引き続き、「変動型」が約6割 〈p. 2〉

- 「変動型」：59.0%（2018年10月～2019年3月調査60.3%）
- 「固定期間選択型」：26.7%（同25.1%）
- 「全期間固定型」：14.3%（同14.6%）

2 今後1年間の住宅ローン金利見通しについて、全体では、引き続き、「ほとんど変わらない」、「現状よりも低下する」が増加 〈p. 11〉

- 今後1年間の住宅ローン金利見通しについて、全体では、引き続き、「ほとんど変わらない」が62.5%（2018年10月～2019年3月調査59.9%）に、また「現状よりも低下する」が7.0%（同4.1%）にそれぞれ増加した一方、「現状よりも上昇する」は21.3%（同27.3%）に減少した。この傾向は全ての金利タイプで共通となった。

3 住宅ローンを選んだ理由は、【フラット35】以外では「金利が低い」、【フラット35】では「返済額を確定しておきたかった」が最多 〈p. 15, p. 16〉

- 住宅ローンを選んだ理由をみると、フラット35以外の住宅ローン利用者で「金利が低い」が71.3%で最も多く、他方、フラット35利用者では「返済額を確定しておきたかった」が56.8%で最も多く、「金利が低い」が47.3%でこれに次いでいる。